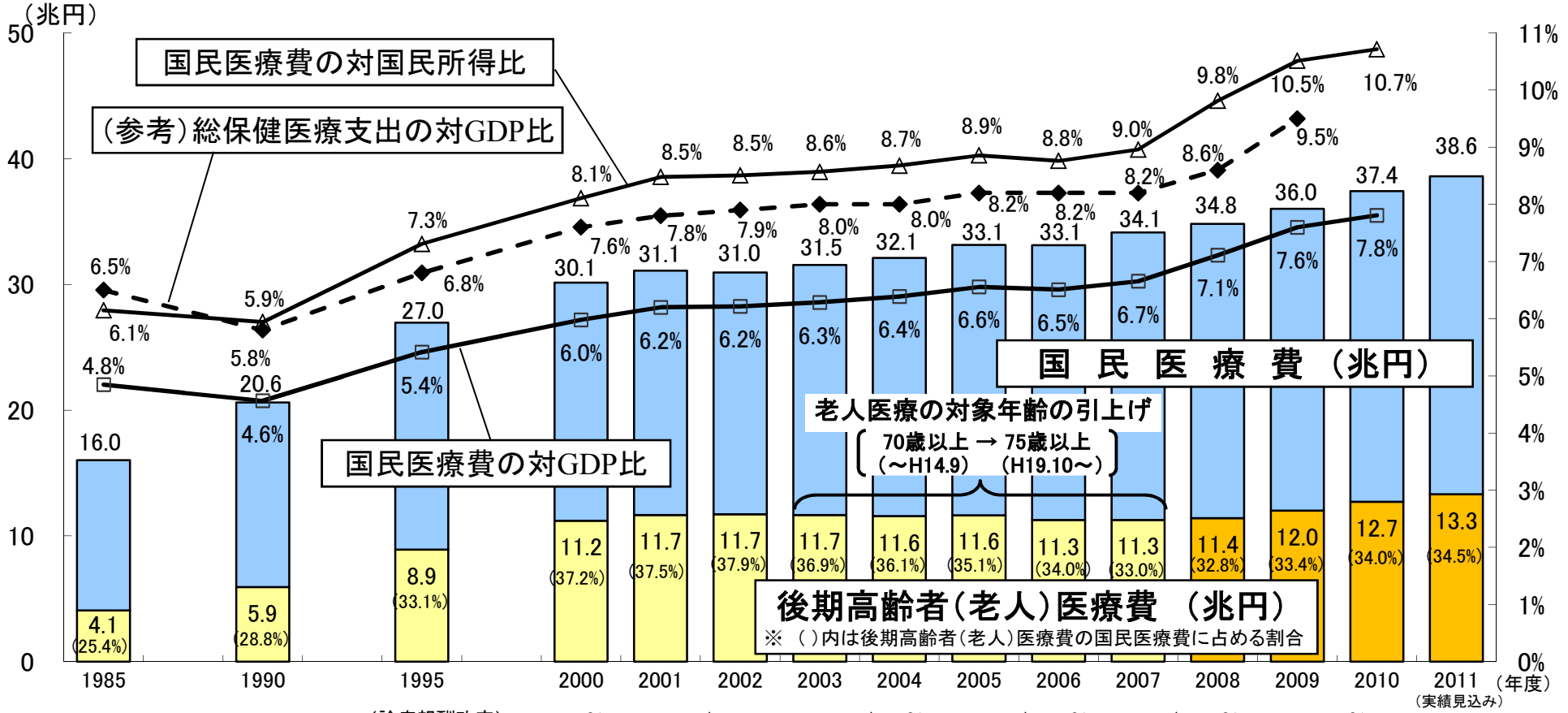
医　療　費　の　動　向



（診療報酬改定）　0.2%　▲2.7%　▲1.0%　▲3.16%　▲0.82%　0.19%

（主な制度改正）　・介護保険制度施行 ・高齢者1割負担導入　・高齢者1割負担徹底 ・被用者本人3割負担等　・現役並み所得高齢者3割負担等　・未就学児2割負担

＜対前年度伸び率＞　（%）

	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	2000 (H12)	2001 (H13)	2002 (H14)	2003 (H15)	2004 (H16)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)
国民医療費	6.1	4.5	4.5	▲1.8	3.2	▲0.5	1.9	1.8	3.2	▲0.0	3.0	2.0	3.4	3.9	*3.1*
後期高齢者（老人）医療費	12.7	6.6	9.3	▲5.1	4.1	0.6	▲0.7	▲0.7	0.6	▲3.3	0.1	1.2	5.2	5.9	*4.6*
国民所得	7.2	8.1	▲0.3	2.0	▲1.4	▲0.8	1.2	0.5	1.1	1.1	0.8	▲6.9	▲3.5	2.0	－
GDP	7.2	8.6	1.7	0.9	▲0.5	▲0.7	0.8	0.2	0.5	0.7	0.8	▲4.6	▲3.2	1.1	－

注1　国民所得及びGDPは内閣府発表の国民経済計算（2011.12）。総保健医療支出は、OECD諸国の医療費を比較する際に使用される医療費で、予防サービスなども含んでおり、国民医療費より範囲が広い。2010年のOECD加盟国の医療費の対GDP比の平均は9.5%

注2　2011年度の国民医療費及び後期高齢者医療費は実績見込みであり、前年度の国民医療費及び後期高齢者医療費に当該年度の概算医療費の伸び率をそれぞれ乗じることにより、推計している。また、斜体字は概算医療費の伸び率である。

医療費の伸び率の要因分解

○　近年の医療費の伸び率を要因分解すると、「高齢化」で1.5%前後の伸び率となっている。
※　「その他」の要因には、医療の高度化、患者負担の見直し等種々の影響が含まれる。

	平成14年度 (2002)	平成15年度 (2003)	平成16年度 (2004)	平成17年度 (2005)	平成18年度 (2006)	平成19年度 (2007)	平成20年度 (2008)	平成21年度 (2009)	平成22年度 (2010)	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)
医療費の伸び率 ①	−0.5%	1.9%	1.8%	3.2%	−0.0%	3.0%	2.0%	3.4%	3.9%	3.1%	1.7%
診療報酬改定 ②	−2.7%		−1.0%		−3.16%		−0.82%		0.19%		0.004%
人口増の影響 ③	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	−0.1%	−0.1%	0.0%	−0.2%	−0.2%
高齢化の影響 ④	1.7%	1.6%	1.5%	1.8%	1.3%	1.5%	1.3%	1.4%	1.6%	1.3%	1.4%
その他（①−②−③−④） ・医療の高度化 ・患者負担の見直し　等	0.4%	0.2%	1.2%	1.3%	1.8%	1.5%	1.5%	2.2%	2.1%	2.1%	0.5%
制度改正	H14.10 高齢者1割負担の徹底	H15.4 被用者本人3割負担　等			H18.10 現役並み所得高齢者3割負担　等		H20.4 未就学2割負担				

注1：医療費の伸び率は、平成22年度までは国民医療費の伸び率、平成23, 24年度は概算医療費（審査支払機関で審査した医療費）であり、医療保険と公費負担医療の合計である。

2：平成23, 24年度の高齢化の影響は、平成22年度の年齢階級別（5歳階級）国民医療費と年齢階級別（5歳階級）人口からの推計である。